

正しい理解で「脳卒中」予防・対策を!

～ 進歩する脳梗塞治療の現状と課題 ～

脳卒中は「時間との闘い」といわれるように、発症後いかに早く治療をするかが回復のカギとなる。脳卒中から命を守り、後遺症を軽減するにはどうしたらいいのか。夏に注意が必要な脳梗塞の話を中心に脳卒中の特徴や予防法について、国立病院機構鹿児島医療センター 脳・血管内科部長の松岡秀樹氏に聞いた。

寝たきりや要介護状態の大きな要因に健康寿命を延ばすためにも発症予防を

脳卒中は、脳の血管に血の塊（血栓）などが詰まって脳細胞が壊死する「脳梗塞」、脳の血管が破れて起こる「脳出血」、脳動脈瘤が破裂して起こる「くも膜下出血」に大別されます。脳卒中は命にかかわる病気であることに加えて、もうひとつ大きな問題は健康寿命を縮めてしまおうということです。発症後、麻痺や言語障害などの後遺症が残る方、後遺症により寝たきりや要介護状態になる方も少なくありません。脳卒中は認知症とともに要介護5と認定される重要な要因となっています。健康寿命を延ばすためにも、脳卒中のことを正しく理解し、発症予防に努めていただきたいと思っています。

夏に多い脳梗塞。その理由は？適切な水分補給で脳梗塞対策を

脳梗塞には、脳の細い血管が詰まる「ラクナ梗塞」、脳の太い血管の動脈硬化によって起こる「アテローム血栓性脳梗塞」、心臓の中にできた血栓が脳に飛んできて詰まる「心原性脳塞栓症」の3つのタイプがあります。最近、増えているのが、心房細動に伴う心原性脳塞栓症です。心房細動は不整脈の一種で、心房が痙攣したように細かく震え、血流のよどみが生じるため血栓ができやすくなります。高齢者では心房細動のある方が多いため、特に注意が必要です。

脳出血の発症は温度変化が大きい冬に多く、脳梗塞は夏場の6～8月にやや多い傾向にあります。その原因のひとつは水分不足で、血液中の水分が不足すると、血液がドロドロ状態になり血栓ができやすくなる影響が考えられます。厳しい暑さが続いています。脳梗塞の発症を防ぐためにも適切な水分補給を心がけましょう。

血栓溶解療法や血管内治療など大きく進歩した急性期の治療法

脳卒中の中でも特に脳梗塞の治療法は飛躍的に進歩しており、血栓溶解療法（tPA療法）や血管内治療により、これまで救えなかった患者さんも回復が見込めるようになりました。tPA療法は脳血管に詰まった血栓を溶かす薬を使用し、詰まった血管を短時間のうちに再開通することで脳梗塞から救うことのできる効果の高い治療法です。ただし、発症後4・5時間以内の患者さんが対象となります。太い血管が詰まっ

いる場合や4・5時間を超えている場合は血管内治療を行います。これはカテーテルを使って血栓を回収し血流を再開するという治療法で、従来の治療法よりも予後はかなり良好であり、重篤な症状が劇的に改善するケースもみられます。

こんな症状が出たら直ちに救急車を素早い行動が命を救い後遺症軽減へ

脳卒中は発症から治療開始までの時間がその後の経過を左右するので、症状の特徴を知って迅速に対応することが重要です。脳卒中の症状が現れやすいのは、顔・腕・言葉です。顕著な症状は、突然顔の片側がゆがむ、片方の手が上がらない、ろれつが回らない、言葉が出ないなどで、症状が体の両側ではなく、片側に起こるのが脳卒中の特徴です。このような症状がひとつでも急に出現したら一刻も早く救急車を呼んで専門施設を受診してください。

年1回は健診で心臓をチェック関連疾患は適切に管理・治療を

治療法が進んできたとはいえ、脳卒中を発症しないように努めることが何より重要です。脳卒中の危険因子となるのが、高血圧や糖尿病などの病気や、喫煙、飲酒などの生活習慣です。生活習慣を見直すとともに、高血圧や糖尿病などのある方は適切に管理・治療を行うことが発症予防になります。また心房細動は自覚症状が無いことも多いため、普段からご自分やご家族の脈を測ったり、定期的に健康診断を受けていただくことで、脳梗塞を起す前に心房細動を見つけることも重要です。鹿児島県は脳卒中の死亡率や発症率が全国平均より高く、県としても脳卒中対策のさまざまな取り組みを行っています。専門医としても県民のみならずに健診や予防の重要性を伝えていきたいと思っています。（談）



国立病院機構 鹿児島医療センター
脳・血管内科部長 / 脳卒中センター長
松岡 秀樹 氏
(日本脳卒中協会 鹿児島支部長)

医療法人香園会
田上記念病院
TAGAMI MEMORIAL HOSPITAL

脳神経内科・循環器内科・消化器内科・リハビリテーション科・歯科

理事長 中村 浩一郎

〒890-0033 鹿児島市西別府町1799

TEL 099-282-0051

https://tagamikinen-hp.jp/



すべての人に明るい未来を。

患者様が、生きがいのある社会生活が送れるよう、地域に根ざし、かつ暮らしを支えるリハビリテーション活動を実現します。

